

米国パウダーショー (PTXi-Powder & Bulk Solids 2012) に参加して

1. 展示会の概要

5月8-10日の3日間、米国シカゴで、UBM Canon社(カリフォルニア州)主催による米国粉体工業展(PTXi-Powder & Bulk Solids)が開催された。粉体工業と医薬・包装・化学・食品製造技術の4展示会との共催で、リード社の後を受けたUBM Canon社主催としては3回目となった。

2. 前回(2010年)との比較

2008年までは全体的に退潮傾向にあったが、今回かなり回復していると感じられた。表1に2010年の来場者数との比較を示す。

	展示のみ 来場者数	技術会議参 加者数	合計	近隣5州(IL, IN, OH, WI, MI)から	米国 以外 から
2010年	4,929	298	5,227	3,032	356
2012年 速報					

表1 2010年の来場者数との比較

2010年には来場者総数が5,227人だったが、今年は6,000人以上と来場者が増加している。出展社も、2008年不参加だった有力粉体機器メーカー(NetzschやMatconなど)も参加している。

3. 日本からの出展企業

今回、PTXi(PBS)展への現地法人を含めた日本企業の出展は弊社を含め全部で13社と、2010年のパウダーショーの時と同レベルである。(表2参照)今回、弊社にて、日本企業6社の直接出展の支援を行ったが、前回同様、共通アイランドブース(合計6コマ、写真1参照)で大きく、良い場所で機械を見せることにより集客効果を高めつつも、同時に打ち合わせテーブルや質素な装飾等を共有することで出展コストを下げながら、米国女性モデルを採用し集客数増を目指した。実際、単独1コマ出展よりも効果大で、集客数も前年より50%増加した(2010年6社来場者数合計247名、2012年6社合計368名)。1社当たりのコストも節約でき当初の目的は達成できたといえるが、課題はある。具体的な引き合い数をもっと増やすためには、もっとわかりやすく・よりアメリカ人にアピールする展示方法の工夫など見直すべき改善事項があるので、次回にこの経験を生かしたい。

	日本からの 出展企 業数	日本以外出 展企業数	合計	日本から の直接出 展社数
2010年	14	367	381	8
2012年	13	395	408	7

表2. 2010年との出展企業比較

<13社の企業名> アサダメッシュ(株)、エクセン(株)、カネキタ(株)、藤崎電機(株)、(株)豊製作所、トリプルエーマシン(株)(以上共同ブース) (株)松島機械研究所、以上日本から直接出展、AAAmachine, Inc. (Des Plaines, IL)、Fuji Robotics (Bellevue, WA)、Horiba Instruments Inc. (Irvine, CA)、Hosokawa Micron Powder Systems (Summit, NJ)、Kuriyama of America Inc. (Schaumburg, IL)、Readco Kurimoto LLC (York, PA)



写真1. 日本企業6社共同ブース

4. 展示・技術会議内容

今回も、前回同様、技術会議が併設され、3つのTech Innovation Sessionが実施された。展示場では、新しい技術があまり見られないものの、米国企業の機械は独創に富むものが多く、米国市場に受け入れられている機械を見て学ぶことができる良いチャンスになる。新商品より今の売れ筋に見るべきものがあつた。

5. おわりに

今回も痛感したのは、日本企業の米国での知名度不足である。日本で、知らない機械を、知らない会社に引合を出さないように、アメリカでも同じである。如何に米国において自社の企業・商品のブランディングを構築するか、それに今後のマーケティングの成否がかかっていると看える。なお、次回の展示会は2年後の5月初めにシカゴで開催されることが決まっており、共同ブース・単独ブースどちらでも、出展に興味ある会社は早めに弊社・UBM Canon社に相談されたい。